

中学校美術科部会

部会長名 添田町立添田中学校 校長 中野 純孝
実践者名 福智町立方城中学校 教諭 星出 秀夫

1 研究主題

思考力・判断力・表現力を高める美術科学習指導の研究
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会的な要請と新学習指導要領の動向から

世界的な出来事が、人々の生活に大きな影響をもたらしている現代において、学校を含めた子どもたちを取り巻く環境もまた、著しい変化を見せている。数年前では考えられなかった家庭・学校での生活スタイルの違いが、子どもたちの今後の成長に与える影響とは、どんなものであろうか。

そんな予測不能な社会の変化の中にあっても、子どもたちには、その変化に主体的に向き合い、自らの可能性を發揮しながら、人生や社会をよりよく生きてほしい。学校教育では、そのために必要な「生きる力」を育成することが求められている。

平成29年告示学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子どもたちに育むことをめざして、「何のために学ぶのか」という学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫等を引き出すために、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理された。また、「どのように学ぶか」について、教育課程編成・実施の在り方（カリキュラム・マネジメント）や子どもの主体的・対話的で深い学びを実現するための配慮事項が示され、現在、各学校での授業改善がすすめられている。

美術科においても以下のような改訂が行われた。教科の目標では、美術は何を学ぶ教科なのかということが明示され、生活や社会の中の美術や美術文化などと豊かに関わる資質・能力の育成がより一層重視された。また、目標が三つの柱、①造形的な視点を豊かにするために必要な知識と、表現における創造的に表す技能に関するもの（知識・技能）、②表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方などに関するもの（思考力・判断力・表現力）、③学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性や情操などに関するもの（学びに向かう力・人間性等）で整理された。

これらのことを踏まえて美術科では、次の視点を意識した授業改善を図ることが重要となる。造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させること（深い学び）。美術を学ぶことに対する必要性を実感し目的意識を高めること（主体的な学び）。自己との対話を深めることや〔共通事項〕に示す事項を視点に、表現において発想や構想に対する意見を述べあったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりすること（対話的な学び）。そうした授業改善が、美術科において育成する資質・能力の一層の深まりにつながると考える。

(2) 生徒の実態から

美術科において豊かな情操を養うためには、生徒が主体的な創造活動を通して、心を生き生きと働かせて自己実現を果たしていく喜びを実感的に味わうことが大切である。それにより生徒は、よさや美しさを自分の中で大事な価値とし、それにあこがれる心を一層豊かに抱くことができるのである。

そんな視点から生徒をとらえると、現状は十分な状態とはいいがたい。作品制作を楽しいと感じ、愛好する姿勢は見られるものの、苦手意識を持っている生徒もみられる。また、学年が上がるにしたがってその数は増加する傾向がある。

苦手意識が何に起因しているかを考えると次のような例があげられる。ひとつめは、作品制作や鑑賞活動における各段階でのつまずきが影響している場合である。「自分の作品イメージに合うアイデアや工夫点がわからない」「鑑賞した作品のどんな点がよいか、どう言葉で表せばよいかわからない」というつまずきが、「もういい・面倒」「自分には才能がない」といったあきらめや投げ出しにつながっていると考えられる。ふたつめは、年齢が上がるにつれて、自他の作品を客観的に比較して見る力が高まり、自らの能力に懐疑的になっている場合である。その際、他者の作品から、どういう表現をするとよいかをとらえ、自作品に活かすという方向ではなく、「自分はみんなより下手だから」という思い込みで自信を喪失していると考えられる。

そうした状態を改善するために、他者の作品と比較し自己の作品の良さを客観的に見出す支援や練習を繰り返すことを通して、対話的な学びで交流することの価値に気づかせると同時に、鑑賞する力を身につけさせることができれば、失われかけた主体性の回復につながり、より深い学びにつなげることが可能になると考える。

3 主題の意味

(1) 思考力・判断力・表現力を高める美術科学習指導とは

美術科において育成する「思考力・判断力・表現力等」とは、表現の活動を通して育成する発想や構想に関する資質・能力と、鑑賞の活動を通して育成する鑑賞に関する資質・能力である。

そのうち、発想や構想に関する資質・能力とは、自らで生み出した主題をもとに豊かに発想し、創造的な表現の構想を練ったり再度練り直したりすることを示しており、鑑賞に関する資質・能力とは、造形的なよさや美しさなどを感じ取ったり、作品に込められた作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えたりするなどの見方や感じ方のことを示している。

また、「思考力・判断力・表現力等」をより豊かに育成するためには、発想や構想と鑑賞に関する資質・能力を総合的に、相互に関連して働かせながら学習を進められるようにすることが大切になる。それは、次の視点で授業を構築し、積み重ねていくことであると考えられる。

- ① 生徒が形や色彩などから感じる造形的なよさや美しさに気づくことができる。
- ② 作品に込められた作者の心情や表現の意図と工夫を感じ取ることができる。
- ③ 身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、材料などの生活や社会を心豊かにする造形や美術の働きなどを捉えることができる。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とは

これまでの美術科では、美術の創造活動を通して、自己の創出した主題や、自分の見方や感じ方を大切にし、創造的に考えて表現したり鑑賞したりする学習を重視してきた。それを一歩進め、より「深い学び」とするには「主体的な学び」「対話的な学び」を取り入れた授業改善が不可欠である。

「主体的な学び」の実現を図るには、まず育む資質・能力を生徒が正しく理解できるようにねらいを明示し、見通しを立てて学習に取り組めるようにする。その上で、生徒自身が自らの変容を自覚できるような振り返りの機会を設定することが考えられる。例えば、表現活動に入る前に完成までの見通しを考えながら計画を作成し、毎時間の作業状況を振り返り、ねらい通りの表現になっているか、どう修正して立て直すかなど、他者の作品と比較しながら振り返るためのワークシートを準備する。そのように、自分なりの意味や価値を具体化していく過程が確認できるような機会を位置づけていくことなどである。また、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させることで、美術を学ぶことに対する必要性を実感し目的意識を高めることができると思われる。

「対話的な学び」の実現を図るには、自己との対話を深めることや〔共通項目〕に示された事項を視点に、表現において発想や構想に対する意見を述べあったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりすることなどが考えられる。このような言語活動の充実を図ることで、お互いの見方や感じ方、考えなどが交流され、新しい見方に気づいたり、価値を生み出したりすることができるようになる。

また、主体的な学び、対話的な学び、深い学びにおいても相互に関連するべきものであり、主題の追求過程や表現の構想段階、創意工夫しながら技能を働かせる場面や鑑賞など様々な過程において、意図的に関連するような授業の流れを構築していくことが重要であると考えられる。

したがって、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とは、美術の学びを質的に深めるものであると同時に、学びを生き方や人生とつなげていくものと捉えて、「造形的な見方・考え方」を働かせた生徒の主体的な学びを保障しつつ、表現と鑑賞を相互に関連させた授業展開の工夫を行うことである。

4 研究の目標

美術科における、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、思考力・判断力・表現力を高めることについて究明する。

5 研究仮説

美術科の表現及び鑑賞の学習活動において、学習意欲を引き出すための振り返りの場や、自他の制作の意図や作品のよさにふれる学び合いの活動を設定すれば、生徒が造形的な見方や感じ方、考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力が高まるだろう。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 題材「タッチサークルステンド制作」

(2) 題材の目標及び指導計画

題 材	タッチサークルステンド制作	総時数	15時間	時期	10月～2月
題材の目標	<p>○ステンドグラス(伝統工芸品)の成り立ちと、デザイン性のよさや美しさを理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫できるようにする（知識及び技能）</p> <p>○ステンドグラスのよさや美しさ、表現の意図と工夫について考えるとともに、構成を工夫し、表現することができるようにする。（思考力、判断力、表現力）</p> <p>○ステンドグラスの成り立ちやデザイン性に関心を持ち、主体的に制作するとともに、心豊かな生活を創造していく態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）</p>				
時数	主な学習活動・内容	教師の手立て		評価規準	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ステンドグラスの成り立ちを知り、デザイン性のよさや美しさを理解する。 ・作業工程を理解し、どのような作品に仕上げるのか(完成)目標を定めて、見通しを持った計画を立てる。 	<p>○ステンドグラスの生まれた理由や美しさ、その特徴を理解できるよう説明する。</p> <p>○ステンドグラスのデザイン性や美しさの特徴を活かした作品制作ができるように具体的な完成目標(テーマ)を設定させ、見通しの持てる計画を立てるように学習ノートを活用する。</p> <p>○ステンドグラスの特徴を活かした下絵について考えるために、様々な素材を提示する。</p>		<p>■ステンドグラスのデザイン性のよさや美しさを理解している。【知】</p> <p>★ステンドグラスの特徴を活かした作品を制作するための(完成)目標の設定と見通しが持てる計画を立てられている。【学】(学習ノート)</p>	
2 （ 本 時 ） 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ステンドグラスのデザイン性(特徴)を活かした下絵づくりをする。 	<p>○完成目標(テーマ)に沿い、特徴を活かした下絵になっているか交流する。</p> <p>○自分の思考や作業のプロセスを振り返ることができるように、学習支援ソフトを活用する。</p>		<p>★ステンドグラスの特徴が作品に活かされている。</p> <p>【知・技】 【思・判・表】【学】 (下絵用紙)</p>	

4 く 5	<ul style="list-style-type: none"> ・創作用台紙に下絵を転写する。 ・転写した線をマジックペンで太くふち取りする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○カーボン紙で転写する際は、ボールペンでなぞると、どこをまで転写したかがわかりやすくなるので、赤色等のボールペンを準備する。 ○スタンドグラスの特徴である黒ふちで区切られていることをイメージできるように、転写した線をマジックペンで太くふち取りする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■転写の方法が理解できている。【知】 ★自分が作業できる太さが予想できている。【判】（作品）
6 く 14	<ul style="list-style-type: none"> ・創作用台紙のふち取り線以外を切り取り、ふち取った線以外の部分に彩色する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○マジックペンでふち取った線（金属フレームの代わり）を切り残すことができるように、ふち取り線以外の部分に彩色する。 ○完成目標（テーマ）に沿った、配色のバランスを考えるために、様々な配色のパターンを例示する。 ○適宜変更や修正をすることができるように、他者の作品と比較する時間を設定する。 ○表側のプラスチック板まで切らないように注意を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ふち取った線を切り残し、それ以外を彩色することが理解できている。【知・技】【思・判・表】【主】（作品） ★プラスチック板を切らないように力の加減ができています。【技】【思・判】（作品）
15	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を完成させる。 ・完成作品の自己評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノリシロや両面テープの活用について確認する。 ○他者と比較しての自己作品の良い所と良くなかった所の双方を客観的に振り返る場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ノリシロや両面テープの役割を理解し、組み立て作業ができています。【知・技】【思・判】【主】（作品） ★客観的に自己作品の分析・評価ができています。【思・判】（学習ノート）

7 指導の実際

(1) 本時 令和6年10月30日(水) 第5校時;美術室

(2) 主眼 スタンドグラスのデザイン性のよさや美しさを理解し、その特徴を活かした下絵を構想することができる。

(3) 目指す生徒の主体的な姿

ステンドグラスのデザイン性のよさや美しさを確認した上で、その特徴を作品にどう活かすか具体的な完成イメージを持って下絵づくりを行おうとしている。

(4) 展開

	学習活動・内容	指導上の手立て・配慮事項・評価	形態	配時
導入	<p>1 ステンドグラスのデザイン性のよさや美しさ等の特徴を振り返る。</p> <p>ステンドグラス風にするポイント (SGの特徴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒ふちで区切られている ・ モチーフとなる絵と背景が組み合わされている (バランスがよい) ・ 細かい色面による色鮮やかな美しさ・色鮮やかな色使い 	<p>○ ステンドグラスのデザイン性のよさや美しさの特徴を活かした下絵について想起することができるように、ステンドグラス風にするポイントを提示する。</p>	全	5
展開	<p>めあて：ステンドグラスの特徴を活かした下絵づくりをしよう</p> <p>2 本時の(個人)目標を設定し、ステンドグラスのデザイン性や特徴を活かした下絵づくりをする。</p> <p>(1) 下絵をつくる上での注意事項を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 完成した時と下絵とでは絵や文字が反対になる。 ・ メインのモチーフと背景の模様とのバランスを考えた構成をする。 ・ 背景の模様だけでも作品は成立する。 <p>(2) 学習ノートに書いた(完成)目標を具現化できるように下絵づくりをする。</p>	<p>○ 学習支援ソフトに配布している資料や例示している背景のパターンを確認しながら作業するように促す。</p> <p>○ 作業が進んでない生徒には、参考作品を見たり、タブレットで検索したり、周りの生徒の作業を参考したりする時間を設定する。</p> <p>○ 完成目標(テーマ)に沿い、特徴を活かした下絵になっているか交流する。</p>	個	40

		○ 適宜、自分の思考や作業の過程を写真に撮り記録に残す。 ■ ステンドグラスの特徴を活かせる素材を選択して下絵づくりを進めている。[下絵用紙]		
終 末	3 まとめを行い、次時の確認をする。		全	5
	まとめ：ステンドグラスの特徴を活かした下絵は、輪郭の線がはっきりしているもの、細かい線が少ないもの、モチーフと背景の構成を考えることが大切である。			
	4 本時の振り返りを行う。	○ 本時の振り返りを学習支援ソフトで行うようにする。	個	

8 研究のまとめ

本題材は、全学年で実施している見通しを持たせる制作計画と振り返りの活動をベースにした表現活動で、作品完成までを見通しながら毎時間の振り返りで進捗状況と目標とした表現に向かっているかや修正点があるかなどの振り返りを行いながら完成をめざす授業構成とした。そして、本時ではめざす作品像を定め、どうすれば目標とする作品に近づけるかを考えつつ、完成までの作業工程を見通した制作計画を基に下絵づくりを行う授業を展開した。

生徒の毎時間の振り返りシートや作品完成時に提出する自己評価を見ると、客観的に自己の作品と対話し文章にすることで、作品の見方や感じ方に深まりが感じられる表現がみられた。さらに、完成時の自己評価においても、今まで主観的な見方や、表面的な次回作への反省が多かったが、自己の作品を客観的に分析しよさや反省点を見出せるようになっていた。また、全体的にみても、記述する行数や言葉数が増加していた。

以上の点から、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して思考力・判断力・表現力を高めることにつながったと考える。

9 成果と今後の課題

- 題材の中で、書く活動や振り返る活動を適切に位置づけることで、生徒自身の思考や見方・感じ方に深まりが感じられた。あわせて、文章表現力の高まりにつながった。
- 書く活動や振り返る活動を授業や題材に取り入れる場合に、何をどう表現するのか、何について振り返るのかなどが、生徒にはっきり伝わるようにしておかなければ、効果が半減してしまうと思われる。

◎ 参考文献

- 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説美術編